

子どもたちの豊かな成長を願って



熊本帯山子ども劇場
事務局長
今福 栄子さん



『熊本県子ども劇場』は、子どものための舞台鑑賞会や、キャンプなどの文化活動などを行うNPO法人です。昭和47年に設立、文化活動を通して地域とつながる、などをコンセプトに活動を行っています。県内には16の子ども劇場があり、中央区でこの活動を行っているのが熊本帯山子ども劇場です。「子どもたちにはテレビやゲームでなく、生の体験をしてほしい。舞台鑑賞はその一つなんです」と語るのは事務局長の今福栄子さんです。今福さんが子ども劇場に出会ったのは子どもの頃。鑑賞会やキャンプなどに参加し、世界が広がったと言います。その後、子育てを始めて子ども劇場に再会。自分の子どもと一緒に会員になったことが、活動の第一歩でした。「さまざまな年齢の方と触れ合うことを通じて、子どもも自分も成長できるのが本当に楽しい」と言います。

PROFILE

熊本帯山子ども劇場事務局長。玉名市出身。玉名市で当時『子ども劇場』の運営委員長だったお母様に連れられて、劇場に足を運んだのが活動のきっかけ。現在は仕事や子育ての傍ら、『子ども劇場』の多岐に渡る仕事をこなしている。

「子どもにとって、いろいろな生の体験ができる場であり続けた」と語る今福さん。これからも多くの子どもたちの成長を見守っていくことでしょう。

老若男女のつながりを作る情報誌



季刊
「ようこそ!じーばーずCaféへ」
編集長
星野 菊子さん



『ようこそ!じーばーずCaféへ』は、読者参加型の情報誌。「じいちゃん、ばあちゃん」が、若者たちを歓迎するイメージで編集長の星野菊子さんが命名しました。「多様な形で、猛スピードで進むデジタル社会に、置いてきぼり感を持つ老人や若者もいるはず。私もその一人なんです。自分のペースで、読む、書く、語る」という古風な習慣も大切にしたいと思い、老人目線の情報誌を企画しました。

生きづらい時代を乗り越えるには高齢者と若者のコミュニケーションが不可欠、しっかりした人間関係を築くことが大切だと星野さんは力説します。それはお互いに感謝の心を持つ、ありがとうという気持ちを持つことだと言います。まずは身近な人、住んでいる地域に感謝することが人の輪になり、熊本を良くする事にもつながると考えています。だからこそ、参加型の情報誌としました。「人間関係もこの情報誌も一本の木と同じ大地に根を張っていないと大樹にはなりません。情報誌に参加して

PROFILE

函館市出身。『ようこそ!じーばーずCaféへ』編集長。映画制作会社で働いていた時に夫(植木町出身・故人)と出会い熊本へ。平成23年読者参加型季刊情報誌『ようこそ!じーばーずCaféへ』を発行。「老人の行く先と若者の未来を見つめて心と心をつなぐコミュニティカフェ」をコンセプトに制作している。

「今後は老人の介護の現実や生活に関わる問題、若者の本音や就労、結婚の切実な問題など誰もが必死で生きていることを伝えたい」と語る星野さん。69歳になり、ご自分のことを「老人」という星野さんですが、まだまだそのイメージにはほど遠いようです。

「今後は老人の介護の現実や生活に関わる問題、若者の本音や就労、結婚の切実な問題など誰もが必死で生きていることを伝えたい」と語る星野さん。69歳になり、ご自分のことを「老人」という星野さんですが、まだまだそのイメージにはほど遠いようです。

まちば
もりあげ
隊

校区を越えて、いろいろな取り組みで「まちを元気に!」する元気な人たちが、中央区にはたくさんいます。ユニークなアイデアで、まちを盛り上げている人々をご紹介します!